

杖道全日本

高木 初V

北海道大会 優勝

市川 準優勝

杖道の第50回全日本大会 全日本剣道連盟主催 五段 部会の高木誠（49） 〓 音更
（10月15日・横浜武道館）の部で全十勝剣道連盟杖道 町Ⅱが細沼哲也（49） 〓 札



全日本大会五段の部で初優勝した高木誠（左）と北海道大会二段の部準優勝の市川美智子

幌市Ⅱと組んで初優勝を遂げた。2年連続の準優勝を経て3度目の挑戦で、稽古の成果を実らせた。第34回北海道大会（10月29日・札幌市稲区体育館）五段の部でも高木が優勝、二段の部は市川美智子（51） 〓 帯広市Ⅱが準優勝した。

（古川雄介）

細沼と長年ペア 堂々の演武披露

高木・細沼組は、決勝を含めた6試合の判定で1本の旗も落とさなかった。大会に向けた2人での練習は十分にできなかったが、そこは初段からペアを組む2

人。「長年の経験があり、互いの良くない部分をし合える。アイコンタクトです」

「こゝ一番で旗が上がらない理由は何か。技術的な気付きを得るため高木は8月に兵庫県姫路市で行われた中央講習会に初参加。演武は太刀を持った相手に対し

て杖の技を繰り出す「起こりを捉える、体（たい）が決まりきる前に抑えるなど、先生方に理合（道理）を指導いただいた」。細沼と話し合って試合で意識した。大会の練習時間に硬い白カシの杖が欠ける不吉なアクシデントもあったが、動じなかった。決勝は同じ北

海道の実力者、安丸裕介・今橋健との対戦。かつて一緒に稽古した仲間と、注目の中競い合った。「昔は震えるくらいだったが、今は緊張した中でもいいパフォーマンスができる」と、堂々の演武を見せた。

全日本大会後の道大会は1人で演武する方式で、こゝでも決勝で安丸を下して頂点に立った。自らの成長について実感はなく、「先生が次々と導いてくれるので、常に満足せず上に進んでいる」と話す。連覇が懸かる来年に向け稽古に没頭するつもりだ。

市川は技に磨き 大舞台にも意欲

2年前の道大会で初段以下下部を制した市川は、昇段後も技に磨きを掛けた。「緊張せずに力を抜くことに心掛けた。稽古から平静を保てるよう目指しているが、一番難しい」と試合を振り返る。決勝で敗れた若い相手からは「ぶれがなくなってきた。大人になって始めると日常の癖や姿勢の悪さが出てしまう」と勉強になる点があった。全日本大会も「機会があれば」と意欲を見せ、大きな大会で力を出せる研さんを積んでいく。



稽古に励む高木と市川